

日本を一番愛した外交官



William Castle
(1878-1963)
ハワイ生まれ、
1921年国務省西欧部長
1926年国務次官補
1929年駐日大使
1931年国務次官

ウィリアム・キャッスルと日米関係

田中秀雄著 A5判ソフトカバー300頁 本体 2,700円 ISBN978-4-8295-0856-5

「日本とアメリカは戦ってはならない！」

昭和初期、日米間に橋を架けることを終生の志とした
米人外交官がいた！

駐日大使、国務次官を歴任したキャッスルの思想と行動
そして、アメリカ側から見た斬新な昭和史

はじめて紹介される事実の数々……

- 排日移民法（1924年）のきっかけを作った埴原駐米大使の失言は実はヒューズ国務長官の示唆によるものとキャッスルが証言
- パリ不戦条約（1928年）の実質的作成者はキャッスルだった
- スティムソン国務長官の「満洲国不承認宣言」（1932年）に対しキャッスルは「満洲は日本が統治したほうが一番いい」と主張
- 日中戦争の時代、対日非難の動きに対しキャッスルは「中国を助けるべきではない。それは中国をソ連に明け渡すことを意味する」と主張

序章	ハワイという橋脚の島
第1章	外交官になるまで
第2章	ハワイにおける大ストライキ
第3章	国務省西欧部長・キャッスル
第4章	キャッスル、日本特別大使となる
第5章	大恐慌の時代
第6章	満洲事変の勃発
第7章	スティムソン長官の不承認宣言
第8章	キャッスルによる満洲事変の総括
第9章	ブロック経済、自給自足経済体制の深化
第10章	在野において旺盛に外交を論ず
第11章	アメリカは戦争に関わらず中立を維持すべきである
第12章	逆風に抗して一日中戦争の時代
最終章	第二次大戦中の雌伏、そして戦後の日本の再生

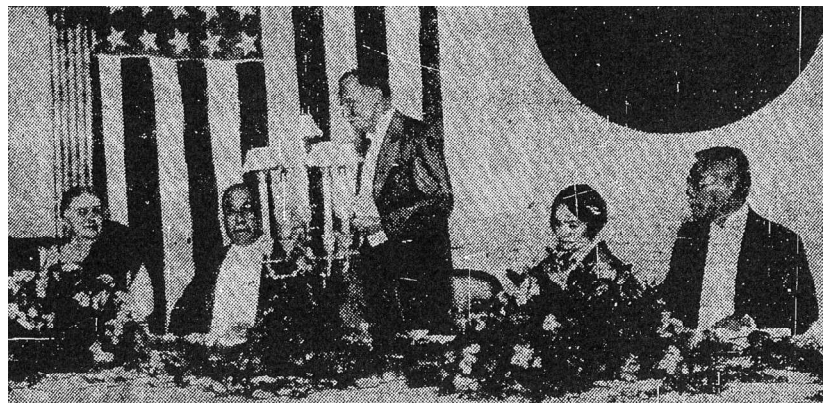


当時の米国務省

「キャッスルは牧野伸顕や金子堅太郎といった明治以前に生れた人から、岸信介、中曾根康弘という戦後活躍した政治家まで幅広く、日本人と交際した人である。それは持って生れた彼の日本人への愛情がなさせたものである。もっと多くの日本人が彼を知るべきだし、顕彰すべきだと私は思っている」（本書あとがきより）

著者 田中秀雄 (たなか ひでお)

1952年福岡県生まれ。慶應義塾大学文学部卒。日本近現代史研究家。著書に『優しい日本人、哀れな韓国人』（WAC出版）、『中国共産党の罟』（徳間書店）、『日本はいかにして中国との戦争に引きずり込まれたか』、『朝鮮で聖者と呼ばれた日本人』（以上、草思社）、『満洲国建国の正当性を弁護する』（G.ブロンソン・リー著、翻訳、草思社）、『暗黒大陸中国の真実』（R.タウンゼント著、共訳、芙蓉書房出版）、『続・暗黒大陸中国の真実』（R.タウンゼント著、共訳、芙蓉書房出版）、『日米戦争の起点をつくった外交官』（P.ラインシュ著、訳、芙蓉書房出版）ほか



日米協会の大使歓迎晩餐会で演説するキャッスル(1930年2月4日)

3月中旬 新刊搬入予定です

配本部数申込締切は 2月28日(火) です

FAX 03-3813-4615

芙蓉書房出版

〒113-0033
東京都文京区本郷3-3-13
http://www.fuyoshobo.co.jp
TEL. 03-3813-4466
FAX. 03-3813-4615

発行 芙蓉書房出版	注文数	注文者
日本を一番愛した外交官		
3月新刊 本体 2,700円	部	